

カメムシ類、トビイロウンカ、コブノメイガの防除について

【カメムシ類】

5月の水稲管理情報No2で情報提供した「イネカメムシ」および「斑点米カメムシ類」については、**出穂2週間前の畦草除草(本田の飛び込み防止)と、基幹防除が重要です。**表1の薬剤を参考にカメムシ類の発生を確認したら防除を行いましょう。



(幼虫)



(成虫)

イネカメムシ



(幼虫)



(成虫)

ミナミアオカメムシ



イネカメムシによる被害粒

・イネカメムシ

防除の目安: 出穂期(40~50%が出穂した時期)に防除を実施しましょう。発生が多い場所では、出穂期7日後に2回目の防除を検討しましょう。

・斑点米カメムシ類(ミナミアオカメムシ等)

防除の目安: 出穂後5~20日の加害により、斑点米が発生するため、穂揃期~10日の間で防除を実施しましょう。

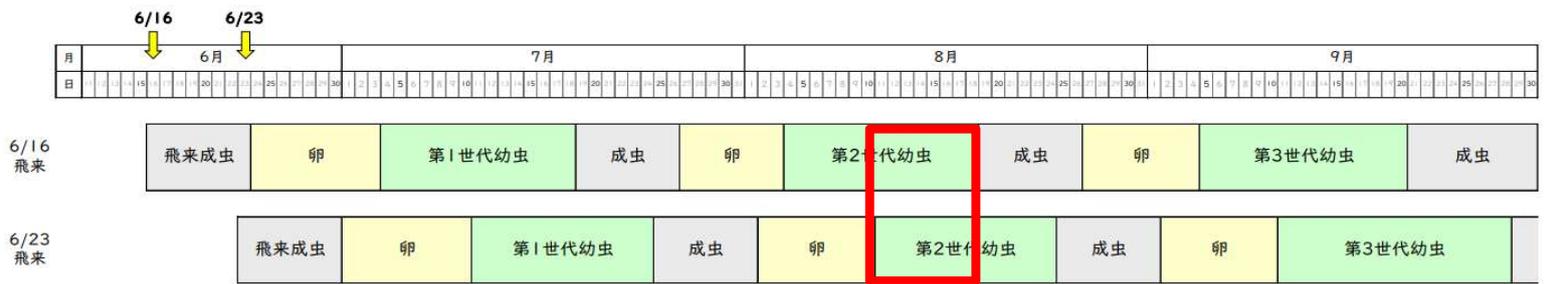
・「スタークル豆つぶ」は液剤・粒剤より早めに散布してください

名称	希釈倍率 使用量	散布液量 (ℓ/10a)	使用回数	使用時期
アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	60~150	3回	収穫7日前まで
アルバリン 粉剤DL	3kg/10a	-		収穫7日前まで
エクシード フロアブル	2000倍	60~150	3回	収穫7日前まで
エクシード 粉剤DL	3kg/10a	-		収穫7日前まで
スタークル 豆つぶ	250g/10a	-	3回	収穫7日前まで

※防除にあたってはミツバチへの影響を考慮して行いましょう。

【トビイロウンカ】

ほ場により発生程度が異なります。効果的な防除を行うためにも、田回りを行い、下図のトビイロウンカ発生予報パターン図を参考に第2世代幼虫の時期を中心に防除を実施しましょう。防除薬剤については、水稻暦や注文書を参考にしてください。



注 (1) 発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)
 (2) 気温はアメダス太宰府を使用(7月1日まで実測値、以降は平年値)

図1 トビイロウンカの発生予想パターン図
 (令和7年7月2日作成)

【コブノメイガ】

成虫は窒素過多、遅植え等の葉色の濃いイネに集中して産卵し、孵化した幼虫が、イネの葉を縦につづり合わせ、葉の表面を食害します。本種による被害が問題になるのは飛来後第2世代幼虫による出穂期前後の食害です。

防除を行う際には、下図のコブノメイガ発生予想パターンと表1の薬剤を参考に、第2世代幼虫の時期を中心に防除を実施しましょう。



(1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。
 (2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。
 発育零点(卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃)、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(卵50.0℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃)
 (3) 気温はアメダス太宰府を使用した。(7月1日まで実測値、以降は平年値)

図2 コブノメイガ発生予想パターン図
 (令和7年7月2日作成)

表1 コブノメイガに対する薬剤

名称	使用量	散布液量((ℓ/10a)	使用回数	使用時期
トレボンEW	1000倍	60~150L/10a	3回	収穫14日前まで